20107

A case of thromboembolism after hemostasis treatment of peudoaneurysm

[1]あおもり協立病院

内藤　貴之[1]

症例は60歳男性。脳梗塞後遺症、高血圧、糖尿病、脂質異常症にて外来通院されていた。もともと自力歩行できていたが両下肢の脱力にて歩行困難、ベッド上生活になっていた。2016年２月院内紹介にて外来受診。CTにて両側浅大腿動脈の慢性完全閉塞を認めた。左総大腿動脈に50%狭窄も認めた。アスピリンとクロピドグレルが開始された。2016年4月に右浅大腿動脈の中間部の慢性完全閉塞に対して右総大腿動脈の同側順行穿刺にて血行再建に成功した。一時退院し、5月再入院のうえ右総大腿動脈からのクロスオーバーアプローチにて左浅大腿動脈の慢性完全閉塞に対して血行再建に成功した。しかしステント内に血栓の付着を認めたため術後、ヘパリン持続点滴を行い、ワーファリンを導入開始した。術後３日目に右鼠径部の圧痛を認め、超音波検査にて仮性動脈瘤を認めた。左橈骨動脈より 4.5Fr ガイディングシースを挿入し、バルーン拡張とエコーガイドでトロンビン注入にて止血に成功したが右浅大腿動脈が血栓性閉塞をきたした。同側順行穿刺して吸引処置を行ったが、十分な再灌流は得られなかった。翌日再治療を行った。右鼠径を同側順行穿刺し、6Fr シースを挿入した。浅大腿動脈は全体に血栓性閉塞し、深大腿動脈から膝窩動脈は造影されたが、膝窩動脈遠位は再び血栓性閉塞し、膝下以下は側副血行により造影された。吸引カテーテルにより繰り返し血栓吸引し.心筋生検鉗子にて血栓の一部を除去することに成功した。腓骨動脈及び後脛骨動脈までの血行再建に成功した。